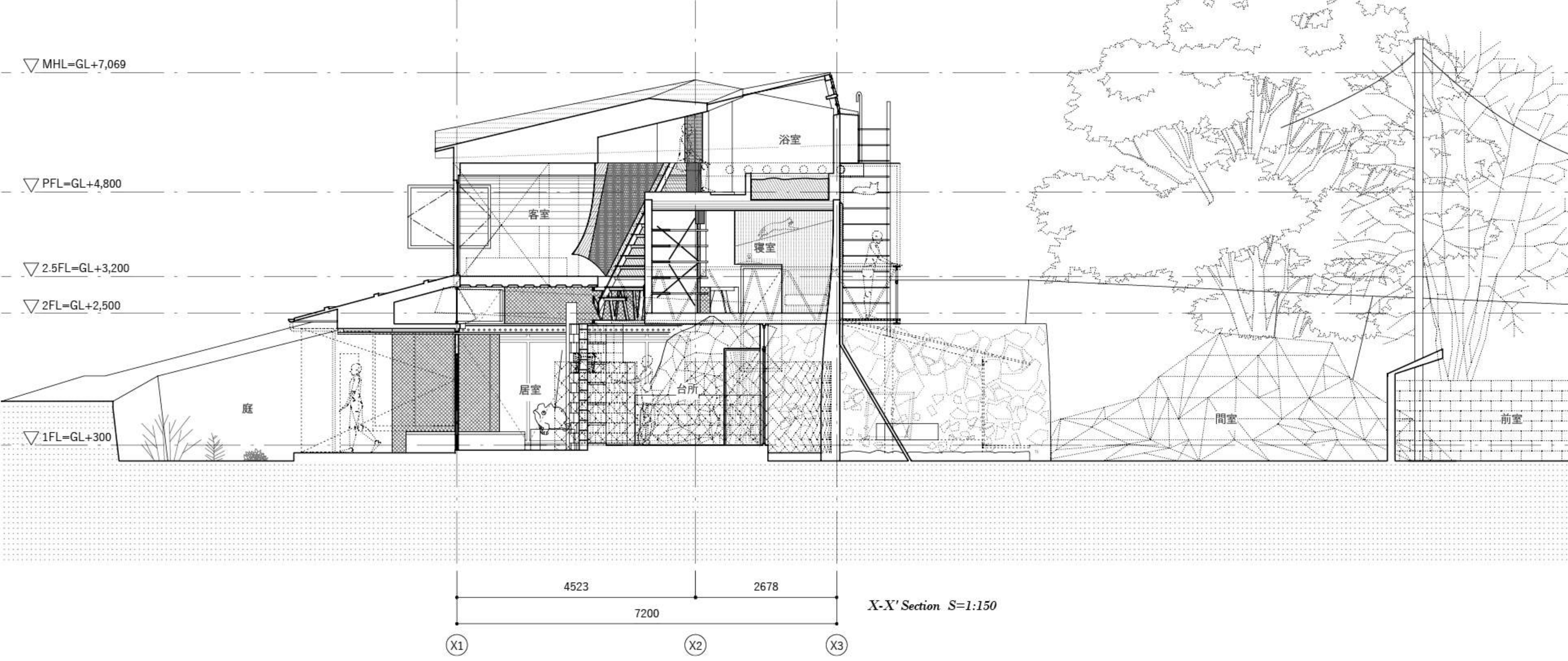
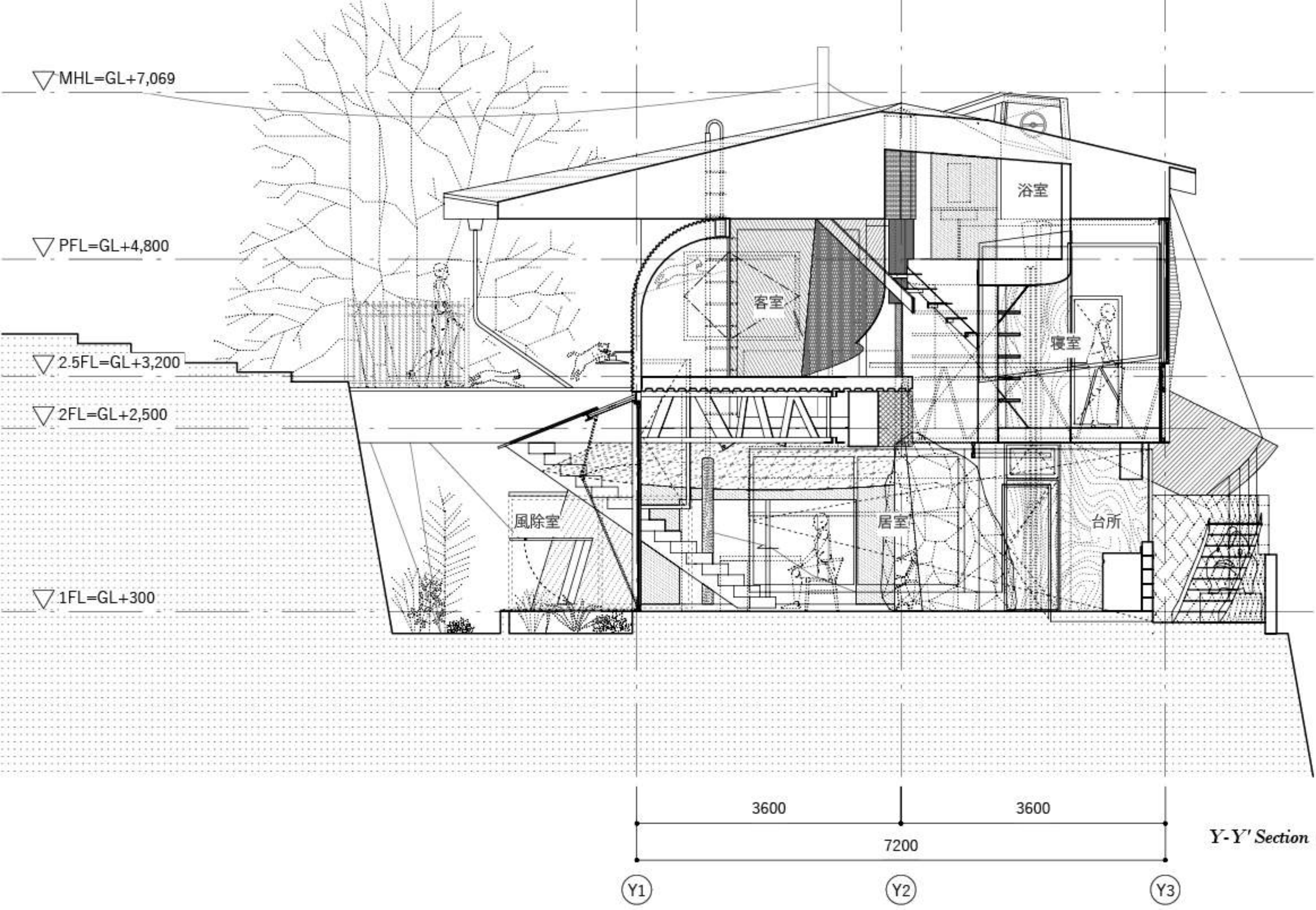


湯河原の家

私は住宅を設計した。わりと普通な背格好だが、なんだか少し気持ち悪い
それでいて、地域の愛着を一身に受けている
奇妙な住宅である。



How to make: House in Yugawara

組み立て説明書 / 湯河原の家

：方形屋根を支えるキーストーンのような役割をもつ。H鋼材の上方に角形柱、その上方に八角形芯束という構成で、やじろべいのように挑み揺らぐピン接合で方形屋根の変形に柔軟に対応している。加えて方形屋根のスラスト（開こうとする力）留めとして下方から小屋束である南瓜束を幾らか凸上げ、圧縮力を掛けている。

：15m/s級の地方風「チガイ」の抑止装置。石屋の中でも細工装飾を専門とする「細工石屋」による基礎と緊結された吹き上げ留めとしての彫刻重石。またそのテンション材が万一切断されたことを想定したフェイルセーフとして控え銅を手摺として利用している。ネットは日除け雨よけだが力学を誤魔化すカモフラージュといても機能している。

：見かけ状はただの階段及び梯子であるが、どちらもその「ささら」が構造的な役割を担っている。また、階段という等間隔のフィーレンディールを剛接合として水平ブレースの役割も有するが、もちろん、人が上階・屋根上へ登るため何ら支障はないように計画されている。

：「猫間障子」は言うまでもなく、障子というプロトタイプに対してガラスを付加したり小窓を設けた我が国伝統の建具であるが、ここではその「基本的構造や見かけは保ちつつも、開き方や役割が異なる」点を、我々が慣れ親しい引違いアルミサッシュに置き替えている。つまりは、見た目は全て同じだが開け方が全て変なアル意味似ているサッシュである。

：基本性性能としてはもっぱらただの棚に過ぎないが、棚それ自体を水平ブレースと見なしテンションケーブルで圧縮をかけ剛性を増大させている。ほか、壁面自体を折り紙のように折り目をつけ、その折り返しによる折版をブレースと見立てることで構造壁としての性能付加を試みている。

：H鋼材ウェブを切断加工しT字鋼二本とした後、Φ 50 の鋼管を荷重分布にそってトラス状に溶接としている。洗濯物干しのピンチハンガーのように、布団だけでなくサッシュもスラブもバルコニーも吊り、同時に手摺としても機能している優れモノ。

：「福浦」は虫がすごい。蚊なんてめちゃくちゃでかい。そのため網戸は必須なのである。ここでは有孔率の異なる網戸を複数選択し、パッチワーク状に継ぎ当て、ジッパーで開閉する建具兼開仕切りとしている。読み替え対象は「鳥紙」、畳の裏にあてる黒い敷紙であるが、その黒色による秘匿性を網戸に置き換え、視線を遮りながらも緩やかに内部を仕切る境界装置として使用している。

：読み替え対象の「孫庇」は元々、母屋の付属小屋（ロフトや収納、「千鳥破風」も同義）としての機能を有しており、その後の技術向上によって長スパンが可能となった結果、「孫庇」は廃れ今日における単なる雨よけ庇と化したのである。ここでは「福浦」のタイポロジーであるトタン屋根が突き刺さる形骸化した雨避けのような外景を見せながらも、実態は主婦大喜びの大規模収納を有した中空ヴォイド庇なのである。

：「福浦」の漁師の間には元々、漁で大量に獲れる貝類を家回りに撒くという習わしがある。もっぱらそれは大量折願、死と隣合わせの漁前に行う儀式のようなものである。この梁中には漁師さんによる大量のトコブシとハマグリが水キレの良い菱形のエキスパンドメッシュに、ぎちぎち溢れんばかり入れられ、その圧縮重力によって梁型が形成されている。また防虫、防臭、防腐効果があり磯の香りがするいい梁である。

：長大な梁型ブリッジをかけるために、組み立て梁を採用している。具体的には、アングルとフラットバーの抱き合わせを効力ボルトで締める、までは通常の組み立て梁と同義だが、ここではフィーレンディールとトラスの複合、つまり曲げ応力のかかる箇所にはトラスを軸力の掛かる箇所には縦椋をというように、適所にフラットバーの形状と寸法を偏心させることで、場当たり的なオブジェクト性を獲得している。

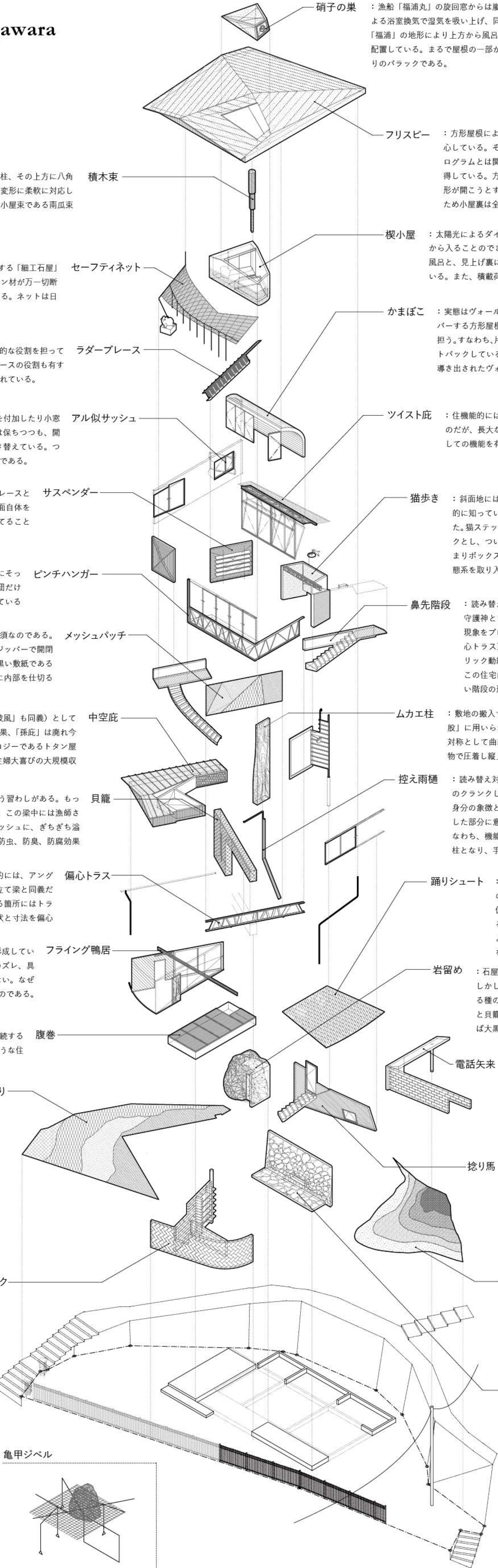
：異形平鋼を穴あけ加工による軽量化、切断加工によりレール状の梁形を形成している。その意味実態は、「アル似サッシュ」との組合せによる見かけと実態のズレ、具体的には、ここではめ込まれたサッシュは完全にFixで単体としては開かない。なぜなら、「フライング鴨居」のレールに沿ってダイナミックに「壁ごと」開閉するのである。住宅を外部住民に対して開き、「話題性」を生み出す仕掛け人。

：サッシュを貫くように敷かれた「腹巻」は、内外の境界を隔てながらも接続する他住民との会話創出の場である。レベル差による公私のサイン、音脱石のような住宅内外の「見切り」としての境界操作を緩やかに行っている。

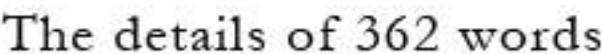
：読み替え対象の「犬走り」の起源は700年前、鎌倉時代にはすでにその記述がある。元来は公共道であったが、その意味が次第に変化し今日における意匠的な意味を持つようになった。その変化が決定的であったのは「塀」の存在である。ここではまず、既存の鉄格子を取り払い、その「塀」が有するべき境界性を雑草の丈長さに置き換えている。すなわち、レイヤー状にプロットされたランドスケープには異なる粒子の異なる丈長さを持つ草木が育ち、まるでほったらかしの「塀」さながらの役割をするのだが、起こり得る実態はその真逆である。雑草を踏み固め、散道と化した奥行をつくり出すことで、逆説的に入り込みやすい、そんな「犬走り」が辿った数奇な運命を実態で表現できないかと試みた。

：読み替え対象の「狝潜り」とは、書院造における「床の間」の明かり取りである。その後、より装飾的になると「獅子垣窓」という固有名詞に変化するが、ここでは「柱に取り付く非構造壁の位置関係によって性能や装飾性が付加される」という点に着目し、制度の解釈に置き換えている。つまりは、既存擁壁による基礎後退によって、擁壁際には通常壁材を配置できないが、コンクリートブロックによる「塀」扱いによってそれを達成している。加えて積み方は既存擁壁と連続させるように「谷積み」の意匠性を一部付加させた。

：一階はたすき掛けラーメンによる剛接合、二階はブレース造としているのを、積載荷重で「重力留め」する構造方式。読み替えたのは「亀甲梁」という近世末期、市村座大道具の棟梁「長谷川勘兵衛」が考え出した梁組み。14本の亀甲形の組合せ梁で従来の3本の大梁に代えた。長スパンが必要な歌舞伎劇場において編み出されたが、この形式を五本の最小断面梁形に置き換え使用している。加えて「アリゲーター歯形ジベル」は、重力圧入による木材同士を緊結する金物であるが、二階以降の部分に積載荷重を集中させ重力で押さえつけるという読み替えを試みている。

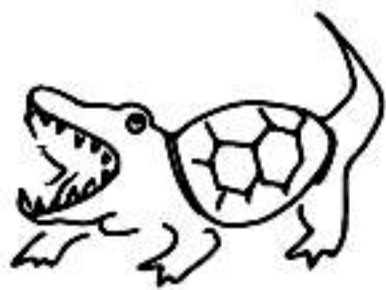


建設業界における生態系を交えた固有名詞

[illegible]

Re-imagine: Proper noun with Animals

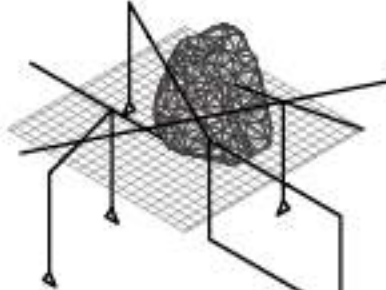
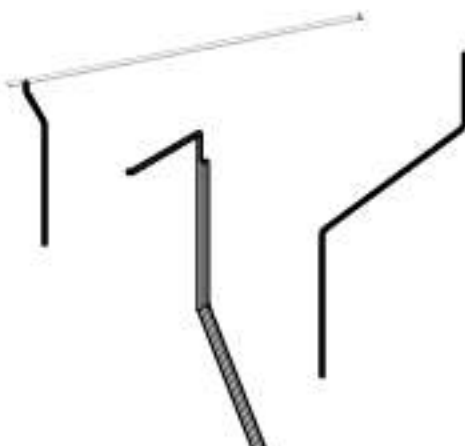
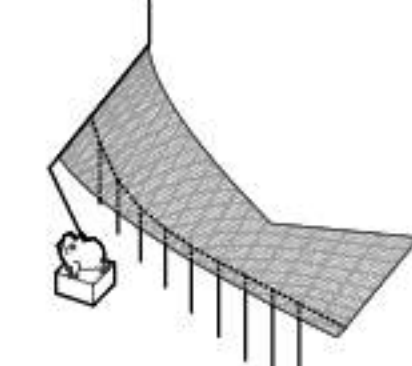
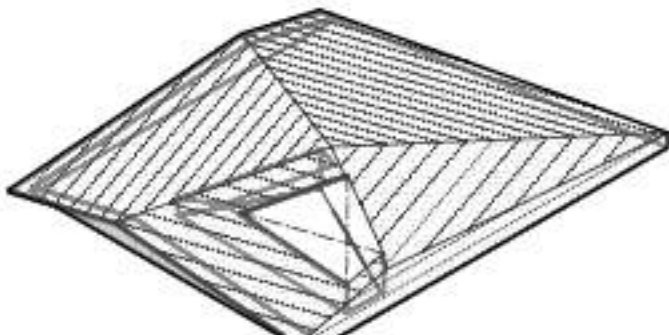
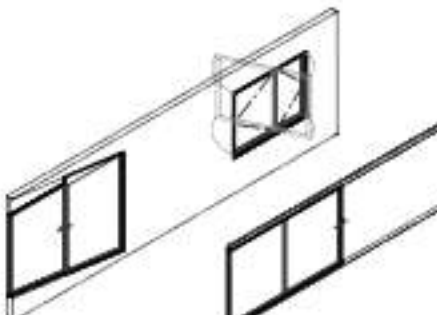
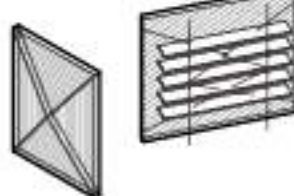
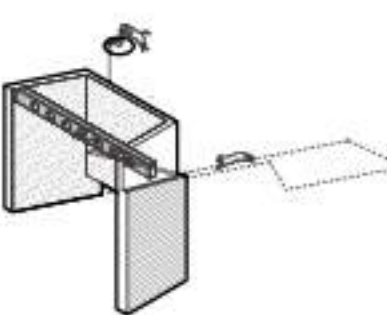
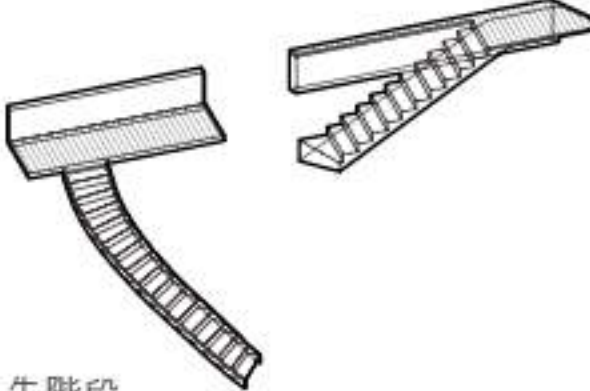
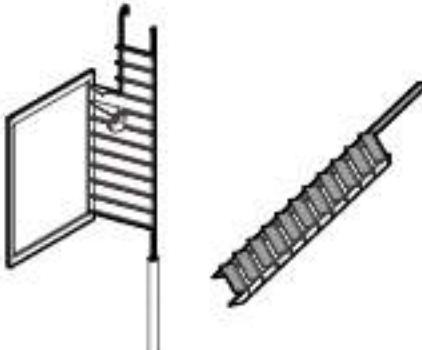
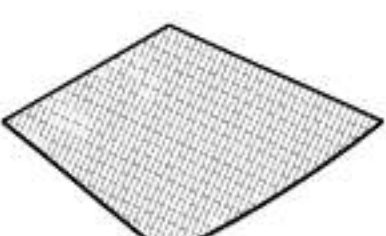
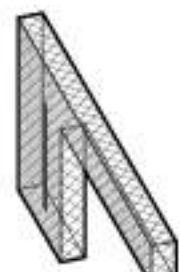
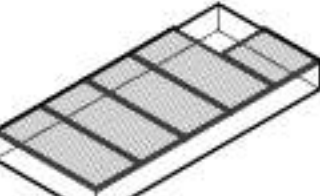
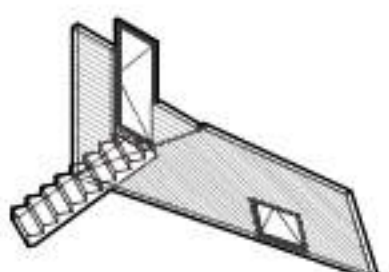
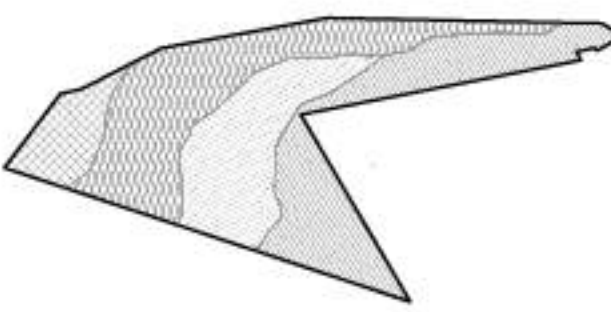
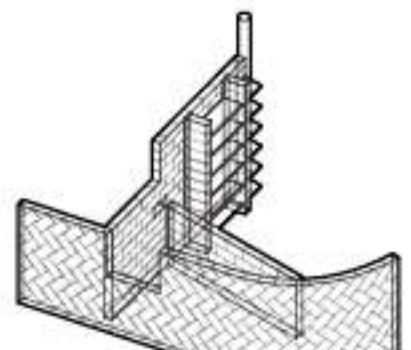
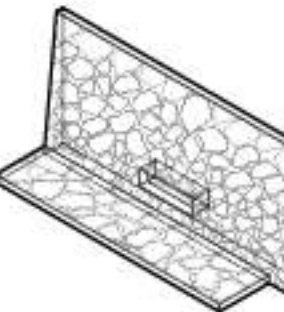
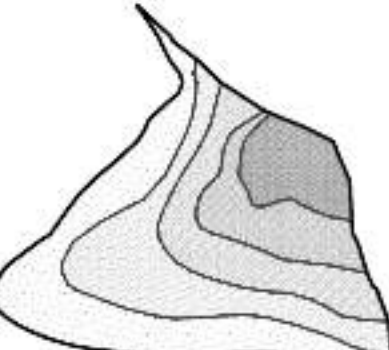
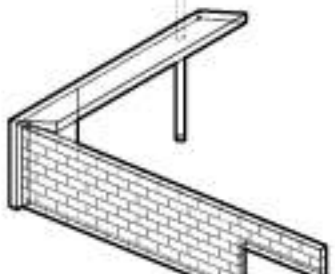
再解釈：生態系を交えた固有名詞

 亀甲梁、アリゲーター歯形ジベル	 鯨鯨、靱柱	 虎尻、虎弓、虎ロープ、地獄柄	 南瓜束、海老束、与治郎束	 鷹頭	 狐窓、兜屋根
 猫間障子、鯖の尾	 亀甲切り、亀甲積み	 蛇腹、小海老、亀の尾	 朝顔、吊り雁木	 キャットウォーク、猫休み	 柘榴風呂、蟻糞ぎ
 牛鼻、男坂、女坂	 牛梁、蜂の巣梁	 鞍栓、蛇庇	 雁木梯子、猿控え	 鳥紙、虫籠格子	 雀踊り、海老縄
 孫庇	 海鼠壁、蛇籠	 亭主石、亀腹	 狸堀り、鬼ボルト	 馬	 兎柱、蛙股
 犬走り、鶯張り	 鴨居、付け鴨居、鴨居差し	 狎潜り、獅子垣窓	 鱈、卯立、稲子	 馬出、犬登り造り	 蜻蛉、犬矢来



List of Components in the Case of Yugawara

構成材一覧 / 湯河原でつくる場合

 亀甲ジベル	 控え雨樋	 セーフティネット	 横木束	 フリスビー	 硝子の果
 アル似サッシュ	 サスペンダー	 かまぼこ	 ピンチハンガー	 猫歩き	 楔小屋
 鼻先階段	 偏心トラス	 ツイスト庇	 ラダーブレース	 メッシュパッチ	 踊りシュート
 中空庇	 貝籠	 腹巻	 岩留め	 捻り馬	 ムカエ柱
 鶯走り	 フライング鴨居	 しゃくりブロック	 ソーラー擁壁	 的土山	 電話矢来